

植物多様性センターの「カツラとカヤ」

奥多摩ゾーンにある池の南側にカツラとカヤが園路を挟んで向かい合って立っています。カツラは街路樹や公園樹、カヤはお寺の境内などによく植えられている身近な樹木で、どちらも秋に良い匂いを発することで知られています。匂いのもとには木そのものではなく、カツラの甘い匂いは落ち葉から、カヤの柑橘類のような匂いは割れた実や落ちた実から出ています。どちらも園路のそばに落ちていますので、匂いを嗅いでみてください。



カツラ: 自生地は溪流沿いなど山地の湿り気があるところ。



カヤ: 山地に自生し、成長は遅いが25m以上の高さまで育つ。



匂いの成分はマルトールという物質。



匂いの主成分は柑橘類に多いリモネンと針葉樹に多いピネン。